

土砂災害に対して何が出来るのか

武生第二中学校一年五組井手口和都彩女

近年では今までの想定を超える集中豪雨や

台風などによる土砂災害が発生しています。

記憶に新しいものでは、平成二十六年八月に

発生した広島県広島市の住宅地をおそった大

規模な土砂災害があります。最終的にこの土

砂災害の被災地域の死者は七十四名、重軽傷

者は四十四名にも上り、豪雨全体では百三十

三棟が全かいたのをはじめ三百三十棟の家

おくが損かいいし、四千百棟以上がしん水被害

を受けたとのことで、豪雨や土砂災害が本当

に恐ろしいものということがわかりました。

私たちが暮らしている福井県ではどのよう

な土砂災害があったのか調べてみたところ、

平成十六年七月に発生した福井豪雨による被

害がありました。当時、私は二才だったので

このときの記憶はありませんが、美山地区や

じょうきょううじ地区などの大きな被害の記録

映像や砂防が土砂を防いだ事例などを見るこ

とが出来ました。

私はこの二つの土砂災害の事例から、被害を最小限におさえるにはどのようなにすればいいのか考えてみました。

まず、大きく分けて「すぐに対処しなければ危険な場所の対策」「土砂災害を発生しにくくする対策」「地域住民や個人レベルでの対策」「過去の事例をもとにした対策」を考えました。

正直なところ、専門的な土砂災害の知識がありませんので、危険な場所の対策や土砂災害を発生しにくくするといったことは、それぞれの専門家の方や研究されている方でなければ意味がないと思ったので、「地域の人や個人レベルでの対策」と「過去の事例をもとにした対策」つまり人や考え方などのソフト面に注目して考えました。

始めに「地域住民や個人レベルでの対策」ですが、もっとも重要なことは、普段から自分の家が土砂災害危険か所にあるかどうか確

認することからだと思います。また、土砂災害の被害の中心は木造住宅の一階部分との統計が出ているので公的機関からの情報を中心としながらも、大雨の時や少しでも危険を感じた場合には、地域のがん丈な建物に避難出来るような地域ぐるみの連けいが必要ではないかと思えます。

また、もっと土砂災害への理解や知識を幼稚園や小学校の頃から教えることも良いのではないかと思えます。私が小学校の頃、子供

会で、南越前町にあるリトリートたくらに行ったことがあるのですが、建物の中にアカタシ、砂防が写真などで紹介されていました。しかし、子供会の中でアカタン砂防なるものを知っている人はいませんでした。もちろんアカタン砂防のある地域の人は知っていると思います。北の住民が知らないことが土砂災害や砂防という大切な減災設備にいかに関心であることとの証明なんだということが感じられました。

次に「過去の事例」について、近年での事例はもちろん重要であることがわかります。しかし、東日本大震災で発生した大津波では昔の人が建てた「この先に家を建ててはいけ  
ない」と記された石ひを境にした津波の到達  
エリアが確認されています。また、津波の時  
には〇〇寺に行くこと、ここを右に山の方に  
走ることなどの言い伝えがいかに有効であっ  
たのかが確認されています。記録にも残って  
いないものの中で大変重要なヒントがあるの

ではないかと考えました。言い伝えや伝承は  
次の世代につながらなければいけません。高れ  
いのお年寄りや年配の人がご先祖から受け継  
いできた今の世代が知らないとても重要な「  
生きる知恵」があると思うのです。

耳にすると何を馬鹿な・・・と思うような  
お話を可能な限り記録し、本当に意味はない  
話なのか確認をするべきだと思います。山あ  
いや谷のような地形に暮らしてきた方々や地  
区の言い伝えを集め、地域にある石ひなどに

ついてももっと調べることこそが必要なので  
はないかと思えます。

私はそこに昔の人達が命がけて伝えてきた  
「宝の情報」がある気がするのです。